

大学とエリア支援保育所との連携による育児支援の継続事業報告

汲田 明美¹, 柴 邦代¹, 服部 淳子¹, 浅岡 裕子², 林 由紀³

Continuation of a child-rearing support system through collaboration between a university and area support nursery

Akemi Kumita¹, Kuniyo Shiba¹, Junko Hattori¹, Yuko Asaoka², Yuki Hayashi³

本学看護学部の地域連携事業として、平成27年8月より、名古屋市守山区にある守山保育園エリア支援保育所サポート園（以下、エリア支援保育所とする）と連携し、「防災」と子育て支援を中心とした「保育の質の向上」への支援に取り組んできた。平成30年度は、「子育て勉強会」「子育て相談会」の継続に加え、新たに「保護者向け子育て支援プログラム」を開催した。「子育て相談会」は3ヶ所から5ヶ所に会場を増やしたことで昨年より多くの相談に対応でき、継続して利用する保護者の育児不安や悩みを軽減することができた。「保護者向け子育て支援プログラム」では、8名の申し込み者のうち6名が8回連続で受講し、子どもの行動のとらえ方の視点の広がりや参加者同士の相互交流などの効果が得られた。

今後も、各事業を継続するとともに、育児支援システムの定着をめざしていきたい。

キーワード：エリア支援保育園，連携，育児支援システム，子育て支援事業

I. はじめに

近年の少子高齢化は、社会全体の重要課題となっており、少子化に対し、2014年「健やか親子21（第2次）」の重点課題として、「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」「妊娠期からの虐待防止対策」を挙げ、すべての子どもが健やかに育つ社会を目標に様々な対策が行われている。

本学看護学部の地域連携事業として、平成27年8月より、名古屋市守山区にある守山保育園エリア支援保育所サポート園（以下エリア支援保育所とする）と連携し、「防災」と子育て支援を中心とした「保育の質の向上」への支援に取り組んできた。平成29年3月には、「保育の質向上事業実施にかかる協定書」を締結し、事業を継続してきた。平成30年度は、これまでの事業の継続に加え、「保護者向け子育て支援プログラム」を開催した。本事業報告では、「育児支援システム」に関する平成30年度

の活動について報告する。

大学とエリア支援保育所の連携による「育児支援システム」の構築については、先行する事業報告（愛知県立大学看護学部紀要第23巻, P113-117）を参照されたい。

II. 子育て支援事業について

子育て支援事業とは、安心して子育てができる環境を社会全体で整備する施策のひとつである。平成30年度も、地域の子育て家庭への支援として、平成28年度から行っている子育て支援の場の活性化を図る活動事業を継続してきた。新たに平成30年度は、小グループの親を対象にした子育て支援プログラムの追加など、新たな活性化を図ることを目的に企画内容を検討した。

1. 事業対象

エリア支援保育所の「地域の子育て家庭への支援」として、通園している子どもと親の支援は、通園施設の保

¹愛知県立大学看護学部（小児看護学・家族看護学）、²名古屋記念病院、³大府あおぞら有床クリニック

育士が中心に行うことができるため、未就園児の子どもと親を対象にすることとした。

2. 事業内容

平成28、29年度と同様に、エリア支援保育所が把握している範囲で、未就園児と親が通う園庭開放や、子育て支援センターに来ている未就園児を持つ母親を対象に、子育てに関する知識の普及として「子育て学習会」を行い、また、実際の育児に関して相談できる「子育て相談会」を、2か月に1回～半年に1回（施設毎に回数は異なる）で、全体の回数と施設を増加して事業を継続してきた。また、平成30年度は、新たに「保護者向け子育て支援プログラム」を連続講座として導入した。

Ⅲ. 子育て支援事業の実際

1. 子育て学習会

「子育て学習会」は、表1に示すとおり、平成28年1月より平成29年度までで3回、平成30年度は1回行った。

内容は、子どもの発達および発達に応じた関わり方についてであり、母親が安心して子育てに取り組めるような知識を提供した。この「子育て学習会」のあとは、子育て支援センターで子どもを遊ばせている母親の子育ての悩みや不安についての相談も行った。

2. 子育て相談会

子育て中の親は、子どもの様子等から、発達に対する心配や、子どもへの適切な対応等、自分の子育てに不安

表1 子育て学習会の概要

	日時	講師名	テーマ	場所	参加者
1	H28年1月21日 10時～11時30分	服部淳子	うちの子大丈夫!? 安心して子育てを楽しむために	守山生涯学習センター	12名
2	H28年6月9日 10時～11時30分	服部淳子	子どもっておもしろい!? 安心して子育てを楽しむために	和進館保育園 子育て支援センターちびっこひろば	15名
3	H29年2月17日 10時～11時30分	服部淳子	安心して子育てを楽しむために	子育て支援センターなえしろ	28名
4	H30年2月6日 10時～11時30分	服部淳子	安心して子育てを楽しむために	子育て支援センターなえしろ	20名

表2 育児相談の概要

1) 和進館保育園子育てセンター ちびっこひろば

回	月日	時間	担当者
1	H30年5月14日	10時～12時	3名
2	7月2日	〃	3名
3	9月6日	〃	3名
4 予定	11月12日	〃	2名
5 予定	H31年1月17日	〃	2名
6 予定	3月11日	〃	3名

2) もみじ出張ひろば

回	月日	時間	担当者
1	H30年4月19日	10時～11時30分	3名
2	6月7日	〃	2名
3	8月2日	10時30分～11時30分	3名
4	10月4日	10時～11時30分	2名
5 予定	12月18日	〃	2名
6 予定	H31年2月14日	〃	2名

3) 子育て支援センターなえしろ

回	月日	時間	担当者
1	H30年6月21日	10時～12時	3名
2 予定	12月21日	〃	3名

4) 山下保育園

回	月日	時間	担当者
1	H30年5月17日	10時～12時	1名
2	9月20日	〃	3名
3 予定	H31年2月19日	〃	3名

5) めだか保育園

回	月日	時間	担当者
1	H30年7月26日	10時～12時	3名
2 予定	H31年3月7日	〃	3名

を感じてしまうことが多い。日常的に、気軽に、子育てで気になることについて相談できる場があると、親は、安心すると考えられる。そこで、発達に不安を抱く親や育児不安のある親が参加しやすいように、子育て支援センターに来ている母親（または養育者）に対し、子育て相談会を定期的に行ってきた。平成28、29年度の活動を継続し、平成30年度は、施設により訪問の回数は異なるが、定期的開催する「育児相談」を、守山区内の5ヶ所の子育て支援センターで行うことができた。毎回、8名～14名前後の母親から相談があった。継続して相談する親に対しては、前回の相談以降の経過も含めて話を聞き、親の頑張りを認めることや、その子どもの成長を含めた的確な助言を行ってきた。相談内容や助言内容は、毎回、子育て支援センター担当の保育士と共有し、連携することで、保育士が行う日々の育児支援にもつながり、親子に対する育児支援の効果は大きいと考える。

「育児相談」の概要を、表2に示す。毎回の相談内容は、発達や育児に関する内容が多く、時には、「便秘」など小児科疾患に関する内容も含まれていた。

3. 保護者向け子育て支援プログラム

1) 内容

エリア支援保育所事業の概要の中の「地域の子育て家庭への支援」として「身近な場所での当事者目線に立った支援」の充実のために、どのような支援ができるかを検討した。平成28、29年度から「子育て学習会」で、子どもの発達に応じた関わり方や子育ての知識を増加するための支援、定期的な「育児相談」で、子育て中に個人的に感じている悩みの相談支援を行ってきた。これらの活動から、母親たちは、日常的に不安や悩みなどを抱えていることが分かった。母親の不安や悩みの相談の中から、いくつかの不安などは、子どもの行動に対する母親の見方や、母親に限られた情報に左右されていることに起因している点に気づいた。次に述べる育児支援プログラムは、母親の子どもの行動のとらえ方の視点を広げる目的に有用ではないかと考え、平成30年度は、アメリカのGlen Cooper, Kent Hoffman, Bert Powellらが考案した（日本語訳は、北川恵、安藤智子、松浦ひろみ、岩本沙耶佳）「安心感の輪」子育てプログラム（8回の連続講座）を採用した。

「子育て」をする親（または養育者）を対象にした「安心感の輪」子育てプログラムは、子どもの「安心したい気持ち」について学び、実際の生活の中の「安心感の輪」

の存在を知り、子どもが見せる姿や欲求をとらえやすくし、子どもの気持ちを意識した子育てについて知るものである。親子が登場するDVDをみながら、話し合い、自分自身の「内省」や「振り返り」を通して学び、自宅では、講座で学んだ子どもへの関わり方を実践したり、子どもの様子を観察したりしながら、自分ができる「子育て」を考えていくプログラムである。この「安心感の輪」子育てプログラムは、子どもの行動をとらえるための知識の増加に加えて、「間違いがあっても、気づいたところから学んでいけばよい」姿勢や、子どもは何回も何回もチャンスをくれるので「けっして遅すぎることはない」という姿勢をもって学ぶ点があり、母親には受け入れられやすいプログラムである。また、毎週、講座の前に、自分たちの子育てに学びを取り入れた様子や、子どもを観察した時の気づきなどを話し合う時間を設けているが、この話し合いによって、参加者同士の相互交流を深める目的も含んでいる。

2) 実施方法

(1) 募集方法

子どもと共に参加でき、子育て中の親が参加しやすいように、託児（守山区エリア支援保育士3名）つきの連続講座を企画し、広報紙や子育てサロンや支援センターで、募集した。

(2) 会場

講義の場所は、守山生涯学習センターの和室を準備した。3部屋分の和室を1室にして、託児の場所と、DVDをみて話し合う場所がとなりになるように会場を設定した。

(3) スタッフの役割分担

講師は、パソコンと、DVDとその日に使用する配付資料を準備した。

エリア支援保育士は、託児用におもちゃやマット、バスタオル、おんぶひも等と、プロジェクターと机、プロジェクタースクリーン、マイク、マイク用アンプ、母親が座るマット、アンケート用紙、ボード、鉛筆を準備した。

講師は、研修を受けた家族支援CNS（専門看護師）2名と大学教員1名が担当し、役割分担をして実施した。プログラムの評価のため、可能な範囲で、親子の様子や参加者同士の交流の様子をメモに残した。保育士は、託児を行った。

(4) 実施日時

平成30年度の連続講座の日程は、2018年5月～6月の

毎週火曜日で、全8回とし、時間は、10時～11時とした。

(5) 欠席者への対応

連続講座であるため、欠席者には、初回時に、欠席した場合は、講師から電話連絡してもよいか、連絡してもよい時間帯等を書面で確認した。欠席連絡の際には保育士が、子どもや親の体調と、後日講師から連絡してもよいかを再確認した。同意の得られた欠席者には、講師が講習内容を電話で伝え、翌週の講座に参加しやすいように支援を行った。

3) 保護者向け子育て支援プログラムの結果および考察

参加者は、最初の申し込みは8名であったが、最後まで連続受講できた者は6名であった。概要を表3に示す。

表3より、情報の入手方法では、子育てサロンが4名、友達・知り合いが2名、保育園掲示1名、赤ちゃん訪問の民生委員訪問の時が1名であった。

参加者の子どもの年齢は、講座の開始時で、5か月、6か月、8か月(2名)、1歳、1歳2か月、1歳8か月、1歳10か月の計8名であった。

(1) 募集方法について

参加者は、家の外の子育ての集まりにも出かけられる方が多かったと推測される。今後も、子育てサロンを中心に、募集をしていくとよいと考えられる。

参加者の年齢では、今回は、具体的な年齢を示さず入園前の児を対象に募集した結果、5か月以上1歳未満が4名、1歳以上1歳10か月が4名であったため、1回目の話し合いでは、それぞれの年齢に合わせて2グループに分け、話し合いの時のみ講師2名が各グループを担当し、ディスカッションを行うことができた。参加者が6名に

なってからは、年齢で分けて1グループで話し合い、ディスカッションを行うことができた。

今後、1名の講師で行う場合は、5か月の頃から1歳未満、もしくは、1歳の頃以上2歳の頃まで、または、2歳の頃以上入園前までといった、子どもの年齢を制限して募集した方が、参加者の話し合いの内容も一致し、また、入園後も同学年となり、再び交流していける副次効果も期待できるのではないかと考える。特に、子どもの行動の幅がどんどん広がっていき始める5か月の頃から1歳未満に設定して募集すると、子どもの欲求を意識して子育てをしていくという考え方を低年齢から知ることができるため、入園前の母親の不安の軽減にも役に立つと考える。

(2) 会場およびスタッフの役割分担について

今回は、和室3部屋を使用して1部屋とし、会場が同じ場所で託児を実施した。

同じ部屋であると、子どもはいつでも参加者のそばにいける利点があり、アンケートからは、「子どもを遊ばせながら、学べてよかった」などの意見もあったが、実際に、子どもがそばにいと、参加者はDVDのすべてをみることとはできず、アンケートの「DVDをもう1回みたい」という意見などにもつながっていたと考える。託児を別室で行い、参加者はDVDと話し合いに集中するという形もよいと思われる。今後、1名の講師で行う場合には、託児を別室にすれば可能である。しかし、参加者の発言や様子の記録について担当できないため、その必要性については再検討する必要がある。

(3) 参加者アンケートの結果および母親の反応

毎回、6～12件程度、平均して1名あたり1～2件の

表3 保護者向け子育て支援プログラム「安心感の輪」子育て支援プログラム

回	月日	予約数	参加者数	欠席	辞退	担当 (講師, DVD, その他)	内容
1	平成30年5月8日	8	8	0	0	3名	「安心感の輪」子育てプログラムへようこそ
2	5月15日	7	6	1	1	3名	「安心感の輪」をめぐる子どもの欲求を知ろう
3	5月22日	7	6	1	0	3名	「安心感の輪」に寄り添うこと
4	5月29日	7	7	0	0	2名	赤ちゃんの「安心感の輪」に寄り添うこと
5	6月5日	7	7	0	0	3名	安心感への道のり
6	6月12日	7	7	0	0	3名	自分自身の課題を見つめる
7	6月19日	6	6	0	1	3名	関係のほころびと修復
8	6月26日	6	6	0	0	3名	まとめとプログラム修了のお祝い

○何でこの講座を知りましたか？

子育てサロンが4名、友達・知り合いからが2名、保育園の掲示をみてが1名、赤ちゃん訪問の民生委員訪問の時が1名であった

意見があった。

講座の内容(表3参照)にもよるが、前半では、「子育ての中でリンクする場面があって少し参考になったかな」「寄り添うことは子どもの感情も理解しようと努めないといけないので難しい」「親である自分自身も、子どもに育てられているなと感じた」「どの年齢でも安心感の輪は存在する」などの気づきが多く、後半では、「子どもが本来の欲求を隠すことがないようにちゃんと向き合って、受け止めていってあげたい」など子どもの欲求の存在を意識した気づきと、「自分がザワザワした気持ちになる時、まずは一呼吸おいて子どもの欲求を正しく受け止めるように気をつけようと思いました」など母親が抱く子育てに関する否定的な感情や子育てしながら生じる自分の気持ちに気づいたなどのアンケート意見がみられた。

参加者の心理的な負担の軽減への配慮は、この講座では重要である。このプログラムは、講座を聴くだけでなく、自分の子育てに学びを生かしてもらうことが大切であるとされている。DVDの中で「こういう親(養育者)だとよいですね。」という話ばかりであると、参加者は、やらなければ、という意識になりがちで、この点については、より注意が必要だと考える。最初の「間違いがあっても、気づいたところから学んでいけばよい」姿勢、子どもは何回も何回もチャンスをくれるので「けっして遅すぎることはない」という姿勢に加え、「3割できていたら、まあまあな親(養育者)」であることを後半は強調して、「皆さんは、すでに良い親(養育者)である」ことや「3割というのは、根拠がある」ことを伝え、参加者の心の負担の軽減を図ったことで、参加者の心理的な負担を軽減できたのではないかと考える。アンケートでは、「3割でいいなら、そんなに少なくないのだから感じたので、少し頑張ってみようかな」といった意見もあり、参加者の心理的な負担を軽減する支援も8回の連続講座への参加につながった可能性も考えられる。今後も参加者の心理的な負担への配慮を忘れずに実施していきたい。

講座での母親の発言は、前半は母親が自主的に発言することはほとんどなく、後半になるにしたがって自主的な発言が増えていた。後半の講座中の発言では、うまくいった発言のみではなく、うまくいかなかった内容や、悩みなどの発言も増えていた。

アンケートでは、「この講座を機会に家族で「安心感の輪」について話すことが増えた」という意見や、「時

には夫の育児参加に不満がある時に子どもの態度や泣き声等が引き金になる……」といった意見なども書かれていた。また、講座の話し合いの中で、「振り返って自分の反省に嫌な気分になるが、その感情が夫へのイライラとなり夫の言動に反応」したり、「自分がいっぱいいっぱいになった時に夫が帰宅して替わってくれたので、自分も落ち着いた」の意見なども聞かれた。「ご家族にもそういう色々な気持ちを伝えられるとよいですね」と一人で育児するのではないことを伝えた。このように、家族内での子育てについての話し合いの機会の促しもできたと考えられる。

プログラム全体の感想として、「子どもをみてもいながら勉強もできて、リラックスの場になってよかった」「子育てをするお母さんたちには必ず受けてほしい講座だと思う」「子育てで困っていたこともヒントになることがたくさんあった」「これから子どものことで問題を感じた時は、『安心感の輪』を思い出して、良い親子関係を築いていきたい」といった意見があった。今後、参加者がこれまでの子育てに、新しく学んだ視点も加えながら、子育てを行っていくことを期待し、本プログラムが少しでも役に立てればと考える。

IV. 今後の課題と対策

平成30年度は、これまでの事案の継続的な実施と、新たな子育てプログラムの実施に取り組んだ。平成30年度の活動でも、「子育て学習会」の実施、育児支援センターでの「育児相談」は箇所を増加し、定期実施を行うことができた。この「育児相談」は、今年度も定期的に行い、継続して利用される親も増えてきた。育児をしながらの不安な思いに、子育て支援センターの場所で、子どもを遊ばせながら相談する形は、実際の様子を含めたうえで、母親の頑張りを認めたり、一緒に子どもの様子を観察したりしながら相談できるという利点がある。大学教員ら(小児看護、家族看護の専門家)から「それでいいよ、大丈夫」や「じゃあ、少し、こんな風に考えると、何ができそう?」「親にとっては困ることで、この年齢の子どもにとっては当たり前なのよ」などの助言をもらえることで説得力が増し、親自身の子育ての中で、「これでいいんだ」「じゃあ、それからやってみよう」と考えられるよう、その親が「できる方法」について、助言ができる点が良かったと考えられる。定期的開催としたので、開催の周知も十分にでき、経過を踏まえて相

談する親も増えていたと考えられる。今後も継続していきたいと考える。

また、今年、新たに少人数の親を対象にした子育てプログラム（連続講座）も実施した。1クール（計8回）のみの実施ではあるが、今回の効果としては、子育てに関する考え方の幅が広がった点と、子どもの欲求や気持ちを考えながら子育てができるようになった点、参加者同士の関わりや家族との関わりが深まった点などがあるのではないかと考えられる。今後も希望者があれば継続していきたい。

先行文献で、秋山（2015）によれば、「子育ての中の『育てにくさ』は、子育ての中での難しさや、心配などを感じる心境を表現し、その要因には、①子どもの要因、②親の要因、③親子関係の要因、④親子を取り巻く環境の要因があり、その要因は、単一のこともあるし、複数の要因が組み合わさっていることもある」とされている。筆者らチームが行っている「育児支援システム」は、これらの要因の④親子を取り巻く環境を含む子育て環境の外側で、「子育て学習会」や「育児相談」「育児支援プログラム」などの支援を行っていると考えられる。定期的に行う「育児相談」は、保護者とともに経過を一緒にみながら、「育てにくさ」に寄り添い、大学教員らの助言、保育士の日常の支援、時期を置いて、経過を踏まえた大学教員らの助言という連携を可能にしている。「子育て学習会」や、「育児支援プログラム」では、子育てに関する知識や考え方の幅を広げることや、学びの実践を可能にしている。これらの活動により、子どもの欲求をとらえながらの育児を考えるといった視野の広がりや、秋山（2015）が述べた①子の要因や、②親の要因、③親子関係の要因などにも、影響をおよぼすことが考えられる。また、母親の感じる困難時には、日常的に保育士や育児相談で大学教員らに相談ができ、必要時は、小児科の受診や、発達障害や身体障害などの専門療育機関への早期受診を可能にしていると考えられる。また、受診後の母親の心理面への支援や、その子どもの育ちを母親と確認

したりする支援も、保育士や大学教員らが行えると考えられる。

相談事業の目的には、気楽に相談できる場所での相談から、発達や療育の問題をもち、専門家の支援が必要な親子をスクリーニングしていく点も含まれる。今後も、身近な場所での当事者目線にたった支援を継続し、その中で、親子が抱える発達や子育てに関する悩みをもち、専門家の支援が必要なケースを早期に発見し、発達障害などの障害を抱える子どもを持つ母親の育児相談も行っていきたい。また、日常の親が感じる困り事に対して、一緒に考えていく「育児相談」も継続し、親が子育ての面白さや、大変だけれど、子どもの変化を楽しめるような子育て、親自身も育つ子育てを支援していきたいと考える。

謝 辞

本育児支援事業を進めるにあたり、ご協力をいただきました名古屋市守山区の守山保育園のエリア支援保育所サポート園、各育児支援センターの園長はじめ担当者の横江万知代様や保育士の皆様にご心より感謝を申し上げます。

文 献

- Cooper, G., Hoffman, K. T., & Powell, B. (2009). The circle of security parenting: A relationship based parenting program. Facilitator DVD manual (5.0th ed.) クーパー, G. ホフマン, K. & パウエル, B. 2009 北川 恵・安藤智子・松浦ひろみ・岩本沙耶佳（訳）2013 安心感の輪子育てプログラム認定講師用 DVDマニュアル 日本語版（1.0版）
- 秋山千枝子（2015）。「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援, 小児科, 56（5）, 663-669.